

中外製薬株式会社 横浜研究拠点プロジェクト 環境影響評価方法書の概要

平成29年9月

創造で、想像を超える。

本日の説明内容



01. 事業計画の概要
02. 配慮市長意見の概要
03. 環境影響要因の抽出、評価項目の選定
04. 調査、予測の手法
05. 方法書対象地域

01

事業計画の概要

創造で、想像を超える。

方法書 p.3

事業の概要

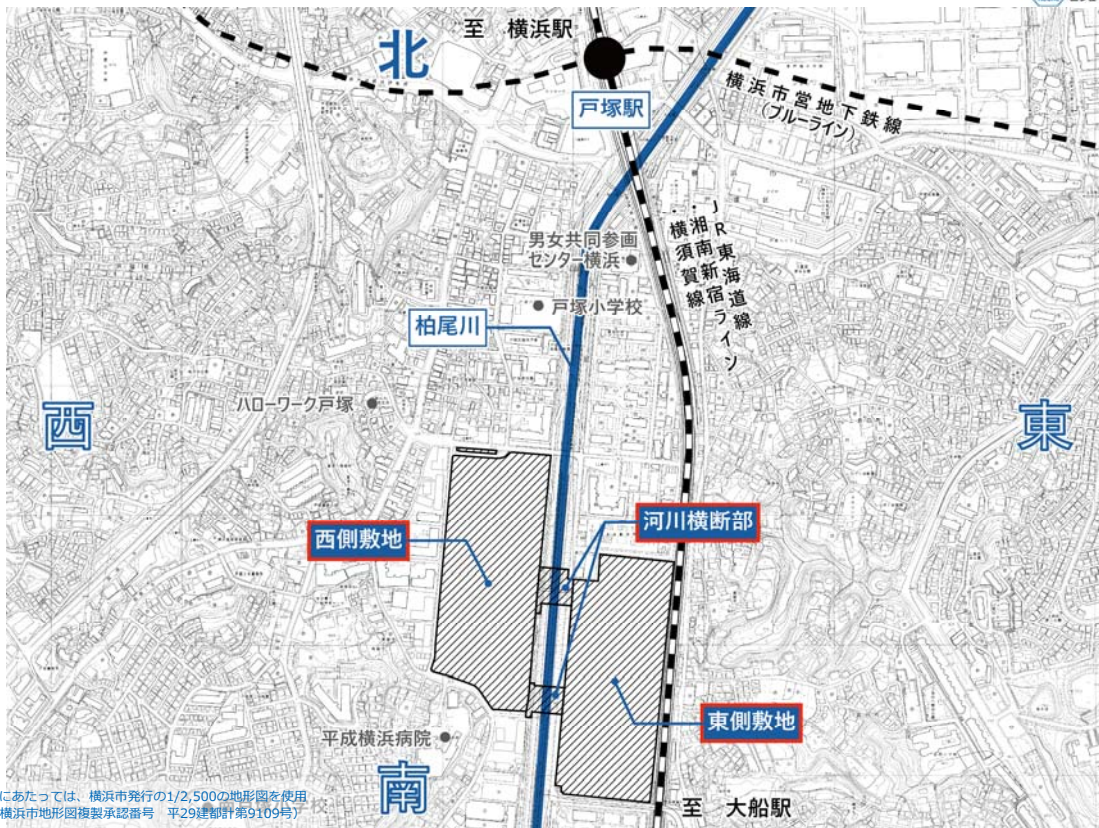
すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュ グループ

事業者の 氏名及び住所	中外製薬株式会社 代表取締役会長 永山 治 東京都北区浮間五丁目5番1号
対象事業の名称	中外製薬株式会社 横浜研究拠点プロジェクト
対象事業の 種類、規模	<ul style="list-style-type: none">・自然科学研究所の建設（第1分類事業）・対象事業実施区域面積：約18ha （自然科学研究所を新設する部分 の敷地面積：約9ha）
対象事業 実施区域	<ul style="list-style-type: none">・西側敷地：横浜市戸塚区 戸塚町字三ノ区216-1ほか・東側敷地：横浜市戸塚区 上倉田町字堀内前79-1ほか

対象事業実施区域の位置



この地図の作成にあたっては、横浜市発行の1/2,500の地形図を使用しています。(横浜市地形図複製承認番号 平29建都計第9109号)

配慮書の内容を変更した主な事項

主な変更点	方法書での記載概要
<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の住所 	事業計画の進展に伴い、東側敷地の住所表記を更新しました。
<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の範囲 	事業計画の進展に伴い、既存のひさご橋に加え、動力橋も本事業において撤去する計画とするため、現段階で想定される工事の作業範囲も考慮し、対象事業実施区域の範囲を更新しました。
<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域 対象事業実施区域面積 建築面積 延べ面積 階数 等 	事業計画の進展に伴い、最新の計画に更新しました。
<ul style="list-style-type: none"> 施設名称 施設配置図 施設断面図 等 	

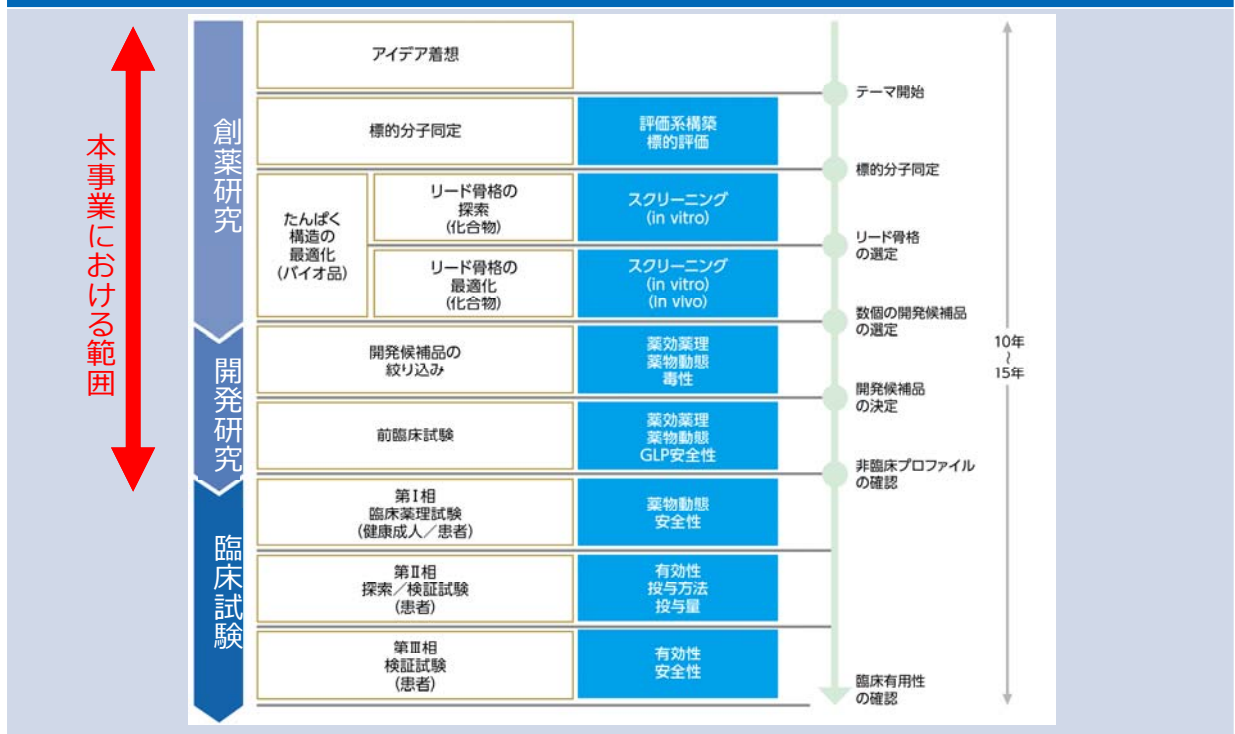
方法書 p.6
事業の目的

すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュグループ

新薬開発のプロセス



方法書 p.7
事業の計画内容※1

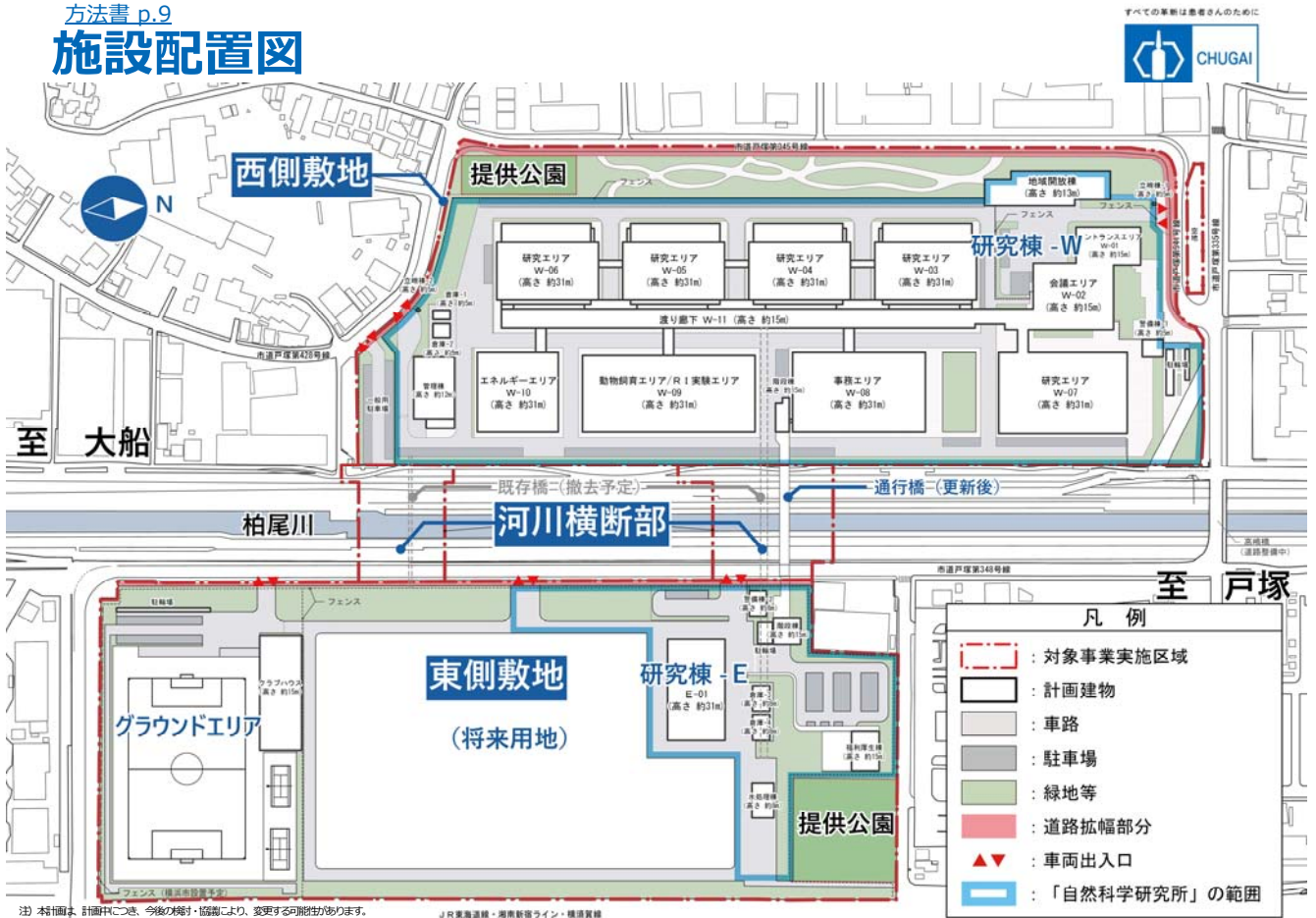
すべての革新は患者さんのために



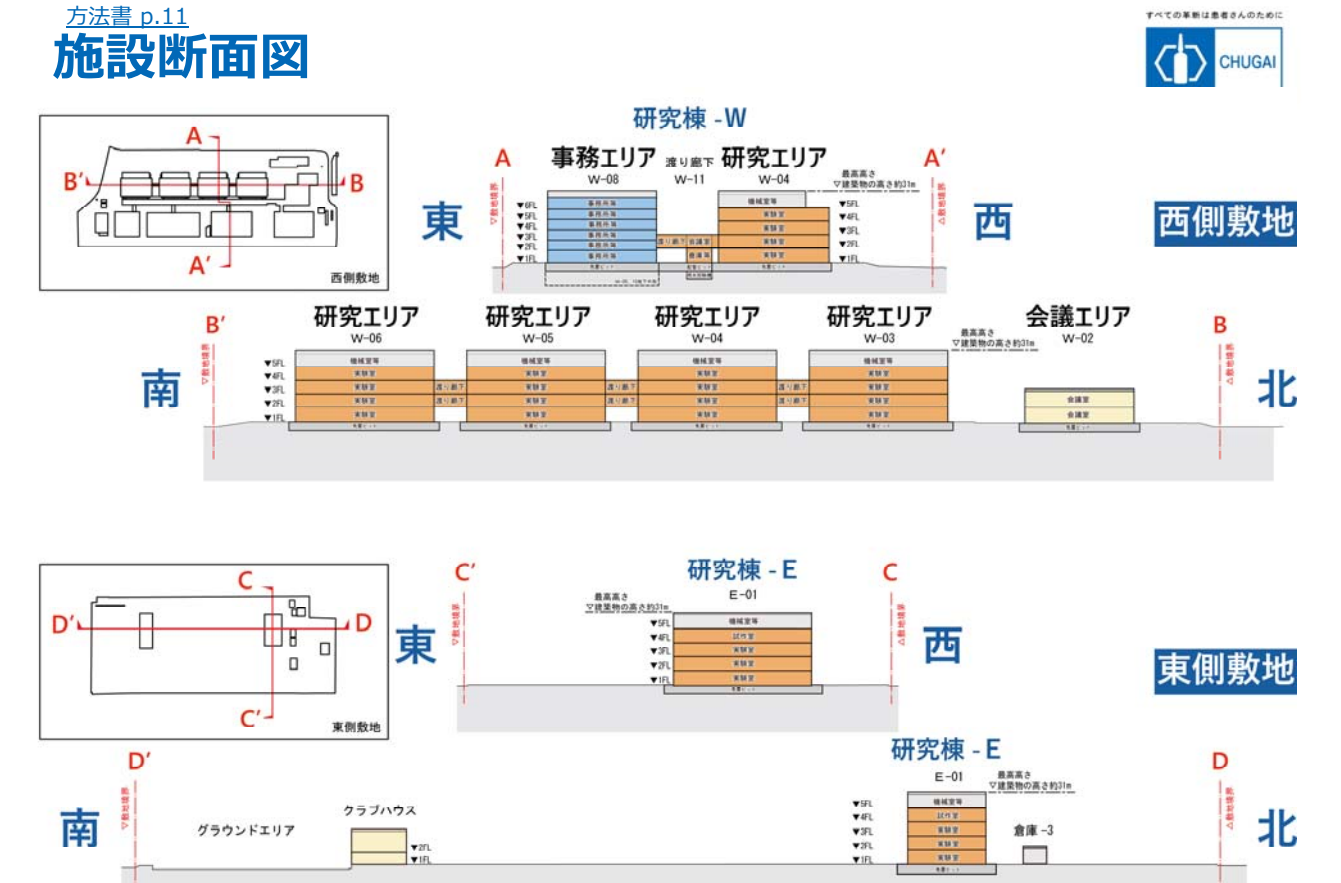
項目	西側敷地	東側敷地	河川横断部
主要用途	研究所等	研究所、福利厚生施設等	通行橋
対象事業実施区域面積※2	約 177,100m ² (約159,000m ²) ※3		
	約 85,200m ² (約 80,150m ²) ※3	約 83,500m ² (約 78,850m ²) ※3	約 8,400m ²
建築面積	約 43,500m ²		
	約 36,500m ²	約 7,000m ²	—
延べ面積	約 154,000m ²		
	約 139,000m ²	約 15,000m ²	—
建築物の高さ	約 31m	約 31m	—
階数	地上6階、地下1階	地上5階	—
工事予定期間	平成31年～平成34年 (予定)		

※1：本計画は、計画につつき、今後の検討・協議により、変更する可能性があります。
 ※2：対象事業実施区域面積は、提供公園及び道路拡幅部分等を含めた面積です。
 ※3：()内は、敷地面積(提供公園及び道路拡幅部分等を除く)です。

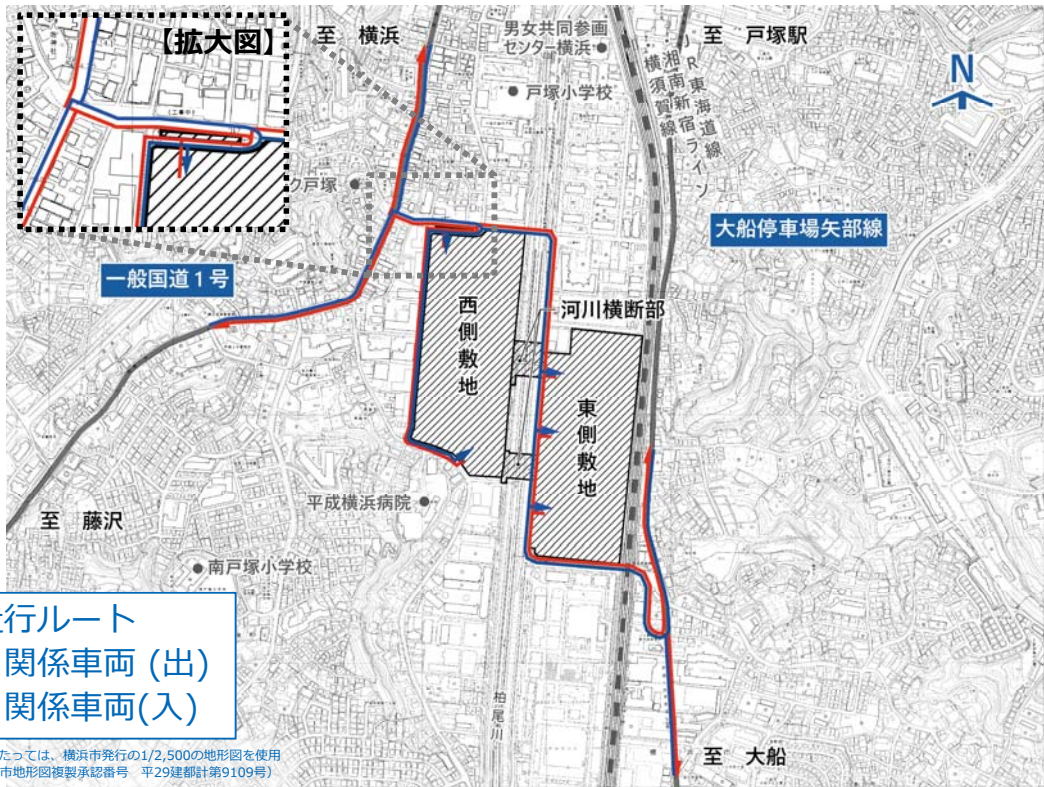
施設配置図



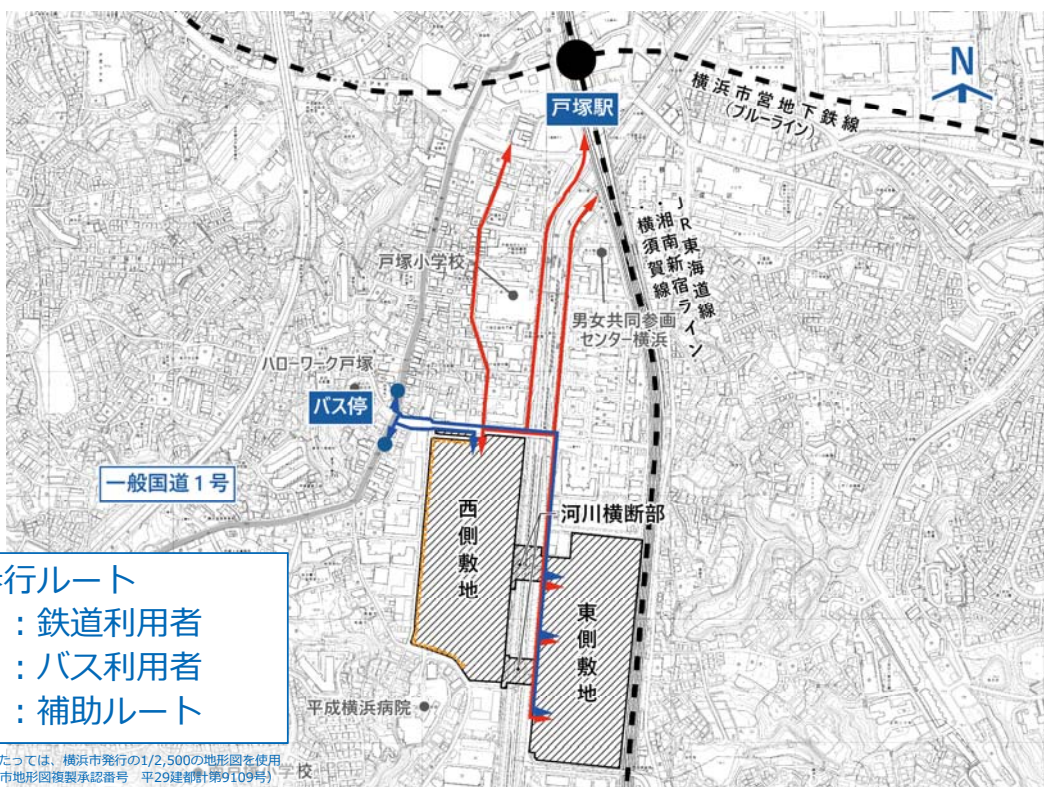
施設断面図



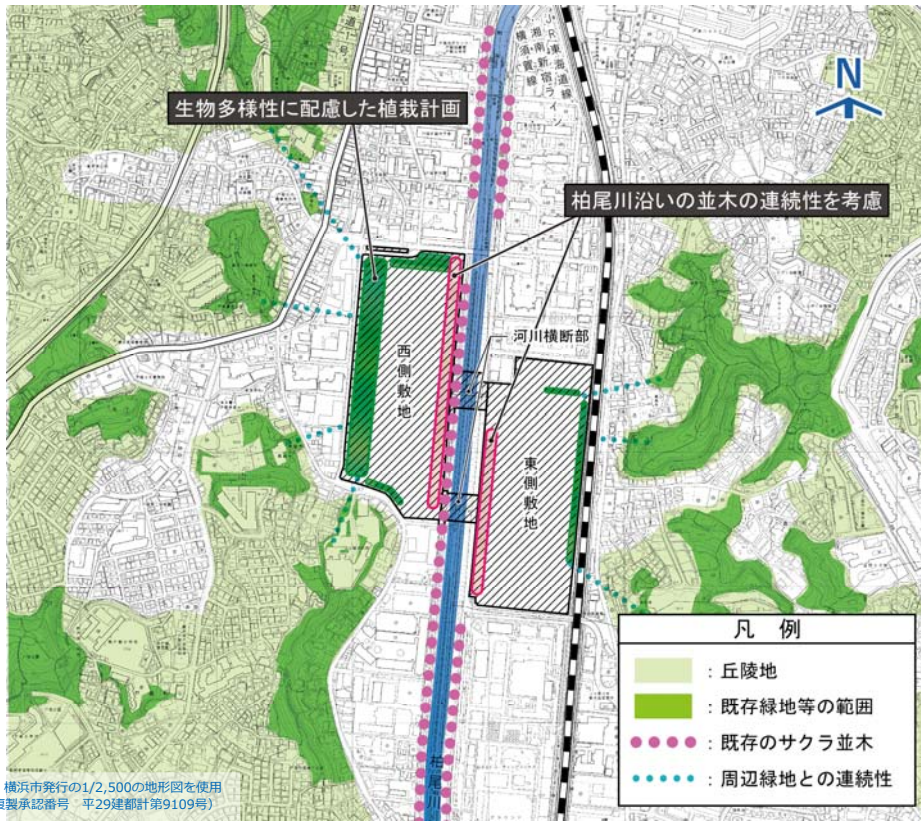
交通計画：関係車両の主な走行ルート



交通計画：施設関係者の主な歩行ルート

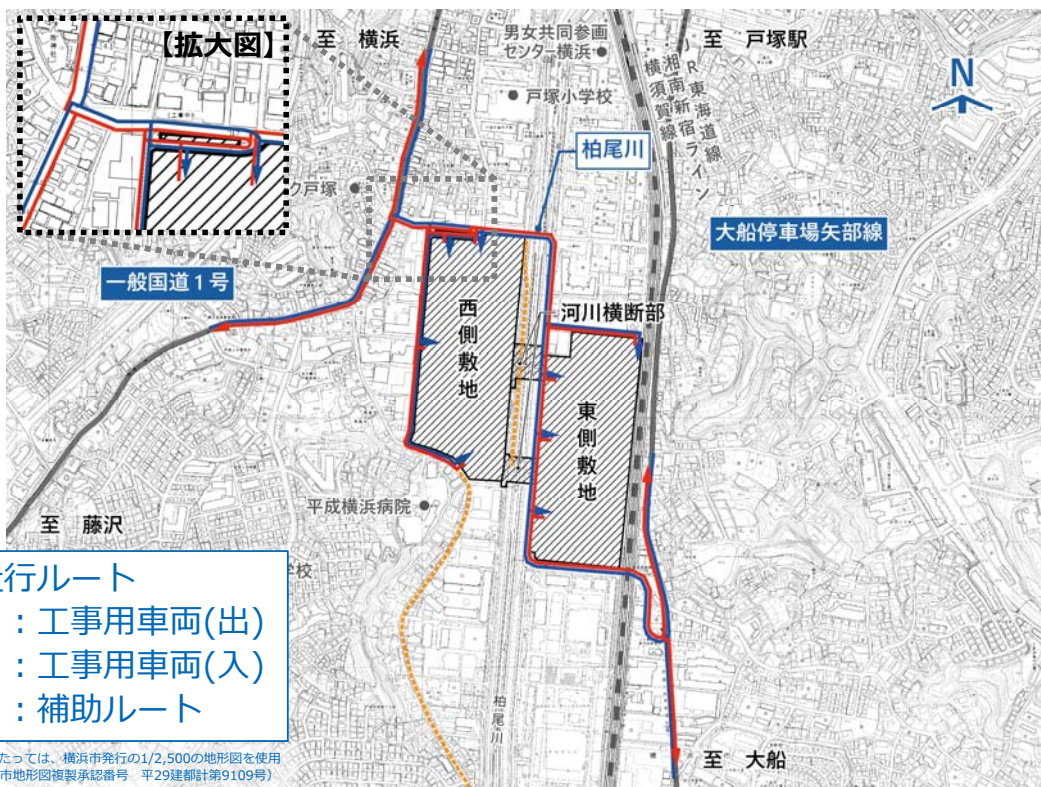


方法書 p.21
緑化方針イメージ図



この地図の作成にあたっては、横浜市発行の1/2,500の地形図を使用しています。(横浜市地形図複製承認番号 平29建都計第9109号)

方法書 p.25
施工計画：工事用車両の主な走行ルート



この地図の作成にあたっては、横浜市発行の1/2,500の地形図を使用しています。(横浜市地形図複製承認番号 平29建都計第9109号)

02 配慮市長意見の概要

創造で、想像を超える。

方法書 p.119

配慮市長意見の概要

すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュ グループ

全般的事項（意見の概要）

(1)	事業の各段階における <u>近隣住民等とのコミュニケーション・情報提供</u>
(2)	市の上位計画等と整合を図るなど、 <u>適時、適切な配慮内容の検討</u>
(3)	<u>配慮内容の事業計画への反映</u> 、 検討事項については検討状況の記載

配慮市長意見の概要



配慮指針に掲げられている配慮事項（意見の概要）

(1)	・ <u>圧迫感の低減</u> 及び <u>視線等への配慮</u>
	・ 河川を挟む計画地の特性を踏まえて、 <u>生物の生息生育環境の保全</u> や <u>景観等への配慮</u>
	・ <u>省エネルギー</u> 、 <u>創エネルギー</u> 及び <u>温室効果ガス排出削減の取組</u> 推進

配慮市長意見の概要



配慮指針に掲げられている配慮事項（意見の概要）

(2)	・ <u>圧密沈下の対策</u>
	・ 過去に載荷重を受けておらず、かつ今後盛土を高く積む場所で <u>ボーリング調査</u>
	・ <u>工事用車両の通行方法</u> について、近隣住民に <u>配慮</u>
	・ 現土地所有者による <u>土壌汚染対策の経緯</u>

対象事業実施区域は工場跡地であり、調査の結果、土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域に指定されていますが、現土地所有者によって、土壌入替え等の対策が進められています。本事業にあたっては、工事着手時に法令に基づき届出を行う予定です（法改正により平成29年4月から、土壌汚染対策法の特定有害物質の追加項目の指定がされています。）。

配慮市長意見の概要



配慮指針に掲げられている配慮事項（意見の概要）

(3)	・ <u>CASBEE横浜</u> における <u>上位ランクの取得</u> に努める
(4)	・ 今後どのような生物が分布する可能性があるか検討、 <u>生物多様性に配慮した緑化計画</u> に努める
(5)	・ <u>省エネルギー、再生可能エネルギーに配慮した設備機器</u> の選定と更新
(6)	・ <u>アイドリングストップ</u> の励行、 <u>エコドライブ</u> の促進、 <u>次世代自動車の導入</u> の検討
(7)	・ 建築物、工作物及び設備機器の <u>長寿命化</u>
(8)	・ <u>ヒートアイランド現象の抑制対策</u> の積極的な導入
	・ <u>高効率な空調機器</u> 等の導入、 <u>排熱位置の配慮</u>
(9)	・ 計画建物の <u>外観等の工夫</u> による <u>圧迫感の低減</u>

配慮市長意見の概要



配慮指針に掲げられている配慮事項（意見の概要）

(10)	・ <u>災害時</u> における、 <u>安全や周辺環境に配慮した計画</u>
	・ <u>薬品類、実験動物、遺伝子組換え生物等の管理面の対策及び体制</u> を示すこと
(11)	・ <u>低騒音機器の採用</u> 等の騒音対策に努める
	・ <u>排水、排気のモニタリング</u> 等による良好な管理
(12)	・ <u>排水利用</u> の検討
	・ <u>廃棄物に係る3R</u> の取組を推進
(13)	・ <u>周辺に配慮した車両出入の頻度や方法</u> の計画
(14)	・ <u>風害、光害及び日照阻害</u> 等の影響を抑制

03 環境影響要因の抽出、 評価項目の選定

創造で、想像を超える。

方法書 p.127

環境影響要因の抽出

すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュ グループ

工事中			
建設機械 の稼働	工事用車両 の走行	地下掘削 ・盛土	建物の建設

供用時		
施設の存在	施設の供用	
建物の存在	建物の供用	関係車両の走行

環境影響要因と評価項目



工事中					
環境影響評価項目		環境影響要因			
	細目	建設機械の稼働	工事用車両の走行	地下掘削・盛土	建物の建設
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物				●
	建設発生土			●	
大気質	大気汚染	●	●		
騒音		●	●		
振動		●	●		
地域社会	交通混雑		●		
	歩行者の安全		●		

注) ●は選定した項目を示します (方法書 p.128に選定・非選定項目を記載)

環境影響要因と評価項目



供用時				
環境影響評価項目		環境影響要因		
	細目	建物の存在	建物の供用	関係車両の走行
温室効果ガス			●	
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物		●	
	産業廃棄物		●	
大気質	大気汚染		●	●
騒音			●	●
振動				●
電波障害	テレビジョン電波障害	●		
日影	日照障害	●		

注) ●は選定した項目を示します (方法書 p.128に選定・非選定項目を記載)

環境影響要因と評価項目



供用時				
環境影響評価項目	細目	環境影響要因		
		建物の存在	建物の供用	関係車両の走行
安全	火災・爆発		●	
	有害物漏洩		●	
地域社会	交通混雑		●	●
	歩行者の安全			●
景観		●		

注) ●は選定した項目を示します (方法書 p.128に選定・非選定項目を記載)

04 調査、予測の手法

工事中の影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

温室効果ガス

工事中の影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

温室効果ガスに関する主な調査内容

調査項目	調査方法	
温室効果ガスに係る <u>原単位</u> の把握	資料	「温室効果ガス排出量算定・報告 <u>マニュアル</u> 」等より、 <u>予測式</u> 及び <u>原単位</u> を整理
<u>排出抑制対策</u> の実施状況	資料	横浜市で取り組まれている <u>地球温暖化対策</u> 等を整理

温室効果ガスに関する予測の手法



供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
<p>設備機器等の稼働に伴う温室効果ガスの排出量及びそれらの削減の程度</p>	<p>工事完了後、事業活動が平常の状態になる時期</p>	<p>対象事業 実施区域内</p>	<p>設置を予定している設備機器の種類、規模、能力等を整理の上、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等に基づき算定</p>



廃棄物・建設発生土

工事中的影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

廃棄物・建設発生土に関する主な調査内容



調査項目	調査方法	
<p>廃棄物及び建設発生土の処理処分の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種類別発生量 ・資源化の状況 ・収集運搬の状況 ・廃棄物の処理・処分等 	資料	横浜市における廃棄物及び建設発生土の処理処分の状況等を 既存資料の収集・整理 により把握

廃棄物・建設発生土に関する予測の手法



工事中			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
産業廃棄物	工事期間中	対象事業 実施区域内	既存資料 に基づき整理した工事に係る産業廃棄物 発生原単位を用いて算定
建設発生土			施工計画 より 発生量を推定

廃棄物・建設発生土に関する予測の手法



供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
<u>一般廃棄物</u> <u>産業廃棄物</u>	事業活動が 平常の状態 になる1年間	対象事業 実施区域内	<u>既存資料</u> に基づき 整理した一般廃棄 物及び産業廃棄物 の <u>発生原単位を用</u> <u>いて算定</u>



大気質

工事中的影響

- 建設機械の稼働
- 工事用車両の走行
- 地下掘削・盛土
- 建物の建設

供用時の影響

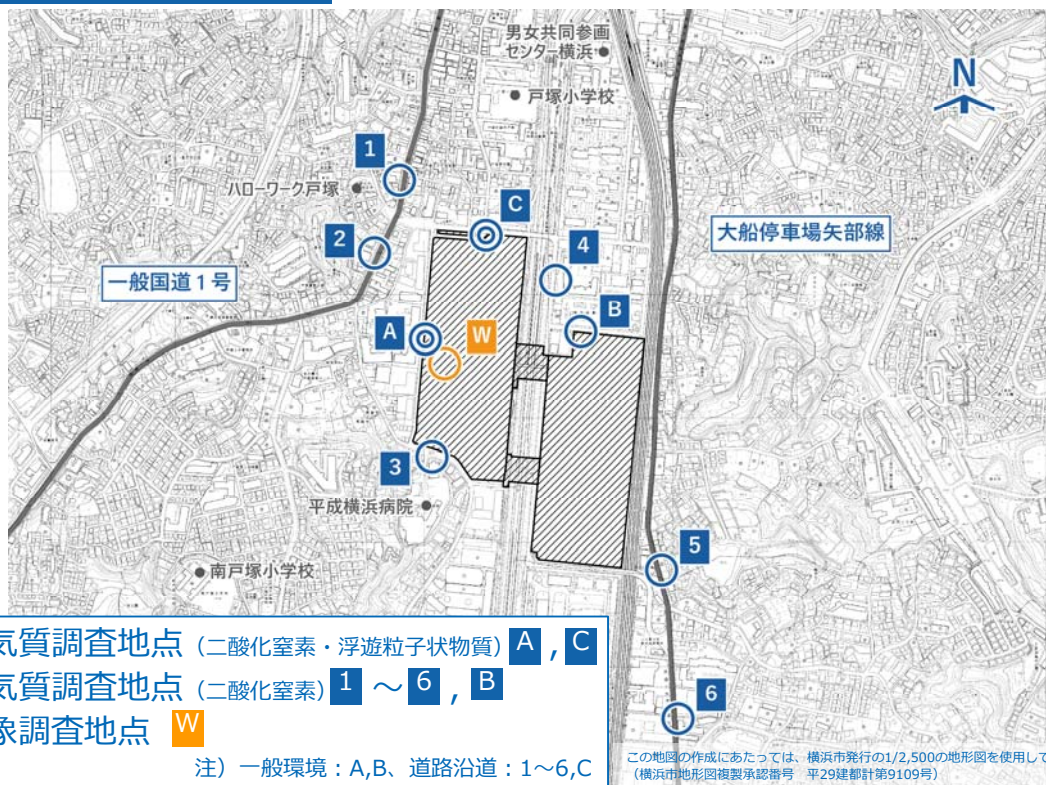
- 建物の存在
- 建物の供用
- 関係車両の走行

大気質に関する主な調査内容

調査項目	調査方法	
大気質 の状況 ・二酸化窒素等 ・浮遊粒子状物質	資料	過去5年間の 二酸化窒素、浮遊粒子状物質濃度 等の状況を整理
	現地	一般環境大気質 及び 沿道大気質 として、公定法により、 二酸化窒素、浮遊粒子状物質 を測定 また、簡易測定法により、二酸化窒素を測定 ・7日間×24時間×2季（冬季・夏季）
気象 の状況 ・風向・風速 ・日射量 ・放射収支量	資料	最新1年間の観測データ（1時間値）について 風向・風速、日射量、放射収支量 を収集・整理
	現地	対象事業実施区域の代表 風向・風速 を測定 ・7日間×24時間×2期（冬季・夏季）

大気質に関する主な調査内容

大気質・気象調査



大気質に関する予測の手法



工事中			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
<u>建設機械の稼働</u> に伴う大気質濃度 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	建設機械の稼働による影響が最大となる時期	最大着地濃度の出現する地点を含む範囲	<u>大気拡散式</u> （ブルーム・パフ式）により、年平均値及び大気安定度Dにおける1時間値(16風向)を予測
<u>工事用車両の走行</u> に伴う大気質濃度 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	工事用車両の走行が最大となる時期	現地調査地点1~6	<u>大気拡散式</u> （ブルーム・パフ式）により、年平均値を予測

大気質に関する予測の手法



供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
<u>設備機器等の稼働</u> に伴う大気質濃度 ・二酸化窒素	事業活動が平常の状態になる時期	最大着地濃度の出現する地点を含む範囲	<u>大気拡散式</u> （ブルーム・パフ式）により、年平均値を予測
<u>関係車両の走行</u> に伴う大気質濃度 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質		現地調査地点1~6	<u>大気拡散式</u> （ブルーム・パフ式）により、年平均値を予測

騒音

工事中の影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

騒音に関する主な調査内容

調査項目	調査方法	
騒音の状況 ・ <u>一般環境騒音</u>	現地	「騒音に係る環境基準について」に定める方法に準拠し、 測定 ・ 平日（24時間）×1回
騒音の状況 ・ <u>道路交通騒音</u>	現地	「騒音に係る環境基準について」に定める方法に準拠し、 測定 ・ 平日（24時間）×1回
騒音の主要発生源の状況 ・ <u>自動車交通量の状況</u>	現地	自動車断面交通量を 測定 ・ 平日（24時間）×1回

方法書 p.145

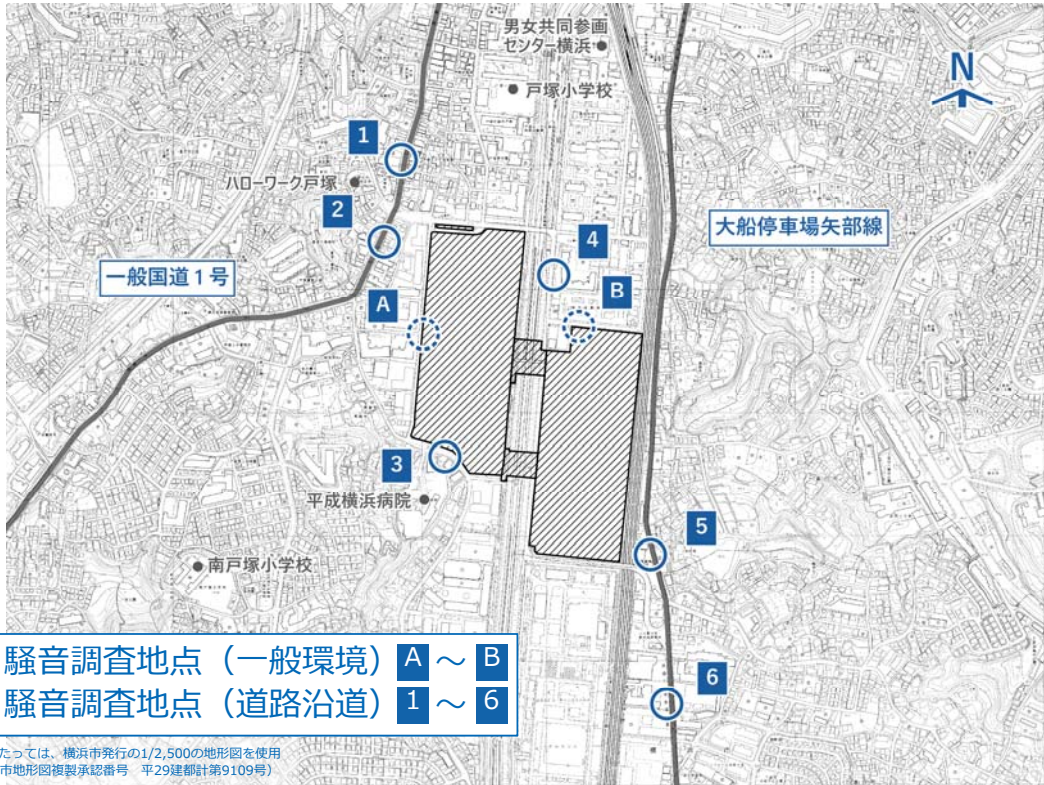
騒音に関する主な調査内容

騒音調査

すべての事業はお客様ののために



Roche ロシュグループ



この地図の作成にあたっては、横浜市発行の1/2,500の地形図を使用しています。(横浜市地形図複製承認番号 平29建都計第9109号)

方法書 p.144

騒音に関する予測の手法

すべての事業はお客様ののために



Roche ロシュグループ

工事中			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建設機械の稼働 に伴う騒音	建設機械の稼働による影響が最大となる時期	対象事業実施区域敷地境界から約200mを含む範囲	騒音の 伝搬理論式 により騒音レベル「90%レンジの上端値 (L_{A5})」を予測
工事用車両の走行 に伴う道路交通騒音	工事用車両の走行が最大となる時期	現地調査地点1~6	日本音響学会式 (ASJ RTN-Model2013)により等価騒音レベル (L_{Aeq}) を予測

騒音に関する予測の手法

供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
<u>設備機器の稼働</u> に伴う騒音	事業活動が平常の状態になる時期	対象事業実施区域敷地境界から約200mを含む範囲	騒音の 伝搬理論式 により騒音レベル「90%レンジの上端値 (L_{A5})」を予測
<u>関係車両の走行</u> に伴う道路交通騒音		現地調査地点1~6	日本音響学会式 (ASJ RTN-Model2013)により等価騒音レベル (L_{Aeq}) を予測

振 動

工事中的影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

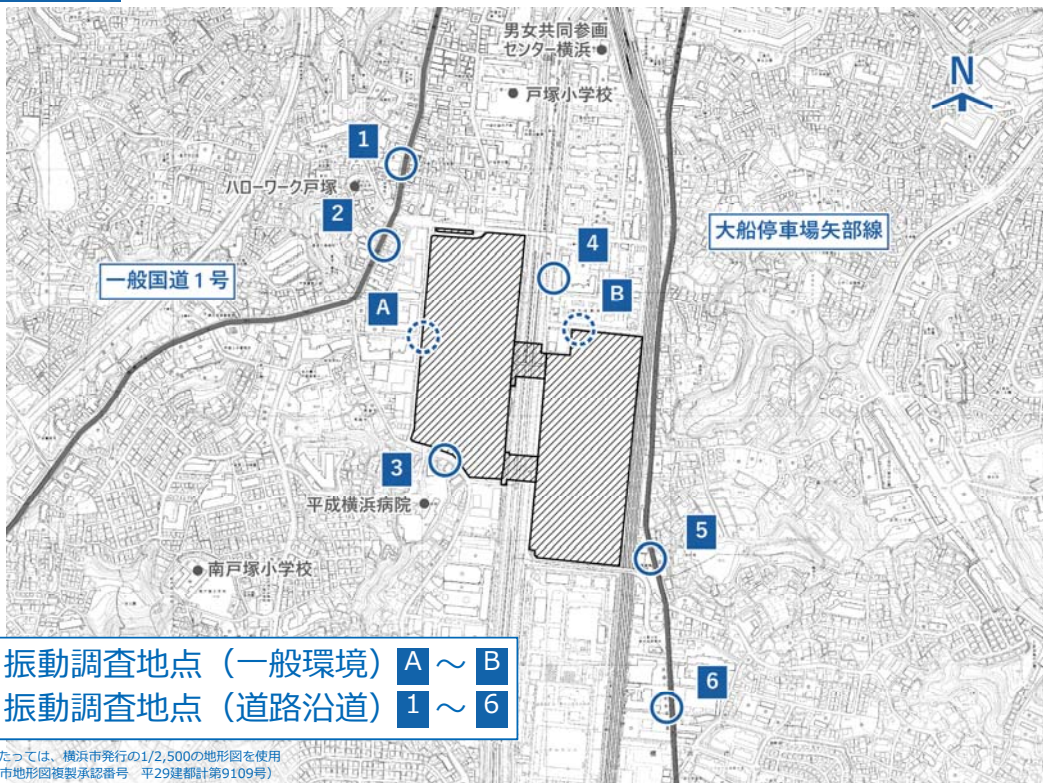
- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

振動に関する主な調査内容

調査項目	調査方法	
振動の状況 ・ <u>一般環境振動</u>	現地	「振動レベルの測定法」に定める方法に準拠し、 測定 ・ 平日（24時間）×1回
振動の状況 ・ <u>道路交通振動</u>	現地	「振動規制法施行規則」に基づく道路交通振動の限度に定める測定方法に準拠し、 測定 ・ 平日（24時間）×1回
振動の主要発生源の状況 ・ <u>自動車交通量の状況</u>	現地	自動車断面交通量を 測定 ・ 平日（24時間）×1回

振動に関する主な調査内容

振動調査



振動に関する予測の手法



工事中			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建設機械の稼働に伴う振動	建設機械の稼働による影響が最大となる時期	対象事業実施区域敷地境界から約100mを含む範囲	振動の 伝搬理論式 により振動レベル「80%レンジの上端値 (L_{10})」を予測
工事用車両の走行に伴う道路交通振動	工事用車両の走行が最大となる時期	現地調査地点1~6	「道路環境影響評価の技術手法」に示される計算式 により振動レベル「80%レンジの上端値 (L_{10})」を予測

振動に関する予測の手法



供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
関係車両の走行に伴う道路交通振動	事業活動が平常の状態になる時期	現地調査地点1~6	「道路環境影響評価の技術手法」に示される計算式 により振動レベル「80%レンジの上端値 (L_{10})」を予測

電波障害

工事中の影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

電波障害に関する主な調査内容

調査項目	調査方法	
<u>テレビジョン放送の受信</u> の状況	現地	「建造物による受信障害調査要領（地上デジタル放送）」に準拠し、電波受信測定車により <u>現地測定</u>
<u>電波到来</u> の状況	資料	<u>地上デジタル放送</u> （東京局（東京スカイツリー）・横浜局・戸塚中継局）、 <u>衛星放送</u> の送信状況を把握

電波障害に関する予測の手法



供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建物の存在による <u>テレビジョン電波障害</u> ・地上デジタル放送 ・衛星放送	計画建物が竣工した時点	机上検討により 計画建物による 電波障害が予測される地域	「建築物障害予測技術（地上デジタル放送）」等に示されている <u>電波障害計算式</u> に基づき、遮へい障害及び反射障害の範囲を予測



日 影

工事中的の影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

日影に関する主な調査内容



調査項目		調査方法
<u>地形</u> の状況	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理</u> 及び <u>現地踏査</u> により把握
<u>土地利用</u> の状況		
<u>既存建築物</u> の状況		

日影に関する予測の手法



供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
計画建物による <u>日影の範囲及び変化の程度</u> ・時刻別日影 ・等時間日影	計画建物が竣工した時点	計画建物からの日影が想定される範囲	計画建物による冬至、春分・秋分、夏至の8時～16時（真太陽時）の <u>時刻別日影図</u> 及び <u>等時間日影図</u> をコンピューターにより計算・作図し、地形図に重ね合わせることで影響範囲を予測

安全（火災・爆発、有害物漏洩）

工事中的の影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

安全に関する主な調査内容

調査項目	調査方法	
<u>過去の被災</u> の状況	資料	<u>既存資料の収集・整理</u> 及び必要に応じて関係者にヒアリングを行い把握

安全に関する予測の手法



供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
対象事業の実施による <u>安全性の確保</u>	事業活動が平常の状態になる時期	対象事業実施区域内	事業計画から、 <u>安全（火災・爆発、有害物漏洩）対策</u> とその効果を明らかにし、予測



地域社会（交通混雑、歩行者の安全）

工事中的影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

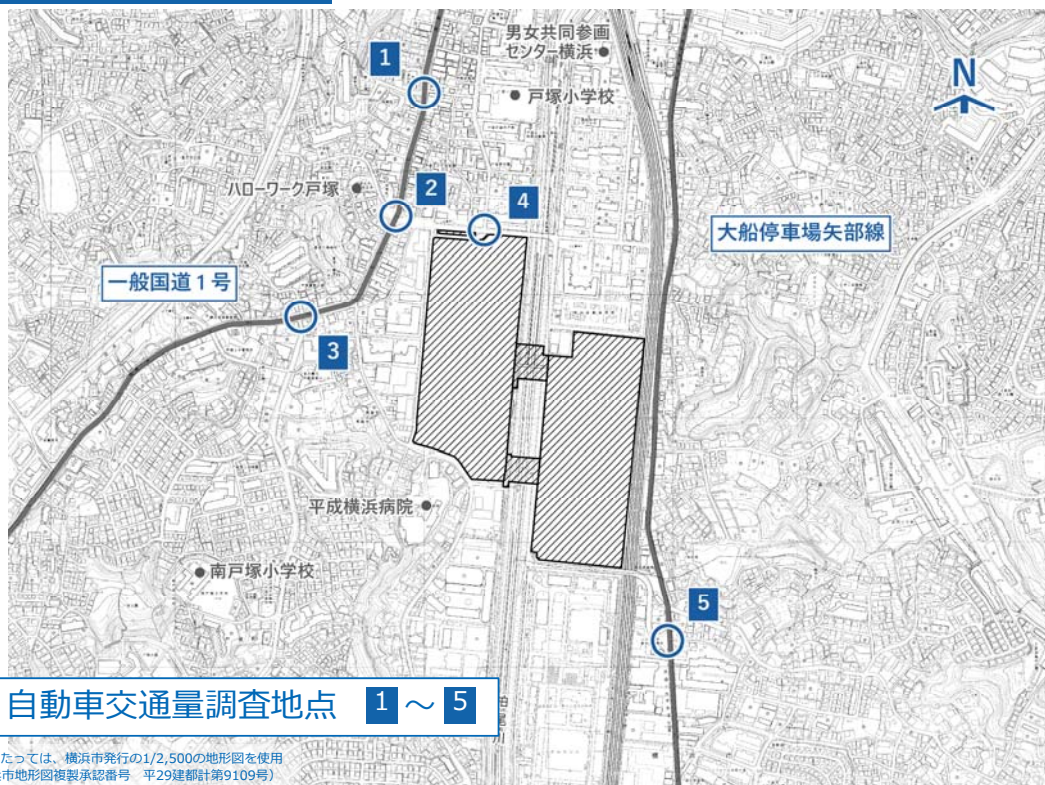
- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

地域社会に関する主な調査内容

調査項目	調査方法	
地域交通 の状況 ・ 主要な交通経路及び交通量の状況 ・ 主要交差点部における交通処理 ・ 交通安全対策の状況 ・ 交通事故の発生状況	資料	既存資料の収集・整理 等により把握
	現地	主要交差点部における車種別・方向別 自動車交通量 、渋滞の状況及び信号現示を1時間毎に測定 ・ 平日（24時間）×1回
歩行者 の状況 ・ 主要な通行経路 ・ 歩行者数 ・ 歩行空間の幅員等	現地	歩道部等の方向別 歩行者・自転車交通量 を15分毎に測定 また、歩行空間の幅員等を現地確認 ・ 平日（7時～22時までの15時間）×1回

地域社会に関する主な調査内容

自動車交通量調査



○：自動車交通量調査地点 1～5

この地図の作成にあたっては、横浜市発行の1/2,500の地形図を使用しています。（横浜市地形図複製承認番号 平29建都計第9109号）

方法書 p.154

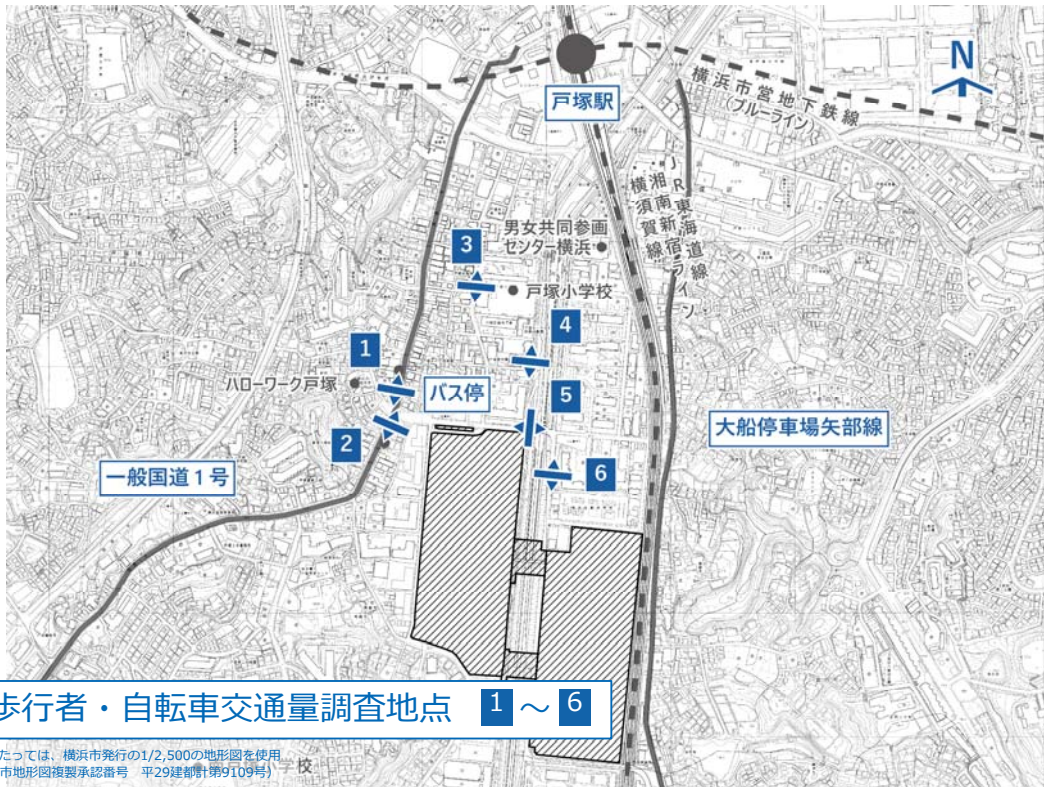
地域社会に関する主な調査内容

歩行者・自転車交通量調査

すべての革新はお客様ののために



ロシュグループ



方法書 p.152

地域社会に関する予測の手法

すべての革新はお客様ののために



ロシュグループ

工事中			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
<u>工事用車両の走行</u> に伴う交通混雑 (自動車)	工事用車両の 走行台数が最大 となる時期	現地調査地点と 同一の地点	<u>交差点需要率</u> の算 出等により、交通 混雑の程度を予測
工事中の <u>歩行者の 安全</u>		工事用車両の 走行ルート沿道	<u>交通安全対策</u> 等に 基づき交通安全への 影響を予測

地域社会に関する予測の手法

供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
建物の供用に伴う <u>交通混雑</u> <u>(歩行者)</u>	事業活動が平常の状態になる時期	現地調査地点と同一の地点	<u>歩行者サービス水準</u> の算出等により、交通混雑の程度を予測
関係車両の走行に伴う <u>交通混雑</u> <u>(自動車)</u>		現地調査地点と同一の地点	<u>交差点需要率</u> の算出等により、交通混雑の程度を予測
供用時の <u>歩行者の安全</u>		関係車両の走行ルート沿道	<u>交通安全対策</u> 等に基づき交通安全への影響を予測

景 観

工事中的影響

- ・建設機械の稼働
- ・工事用車両の走行
- ・地下掘削・盛土
- ・建物の建設

供用時の影響

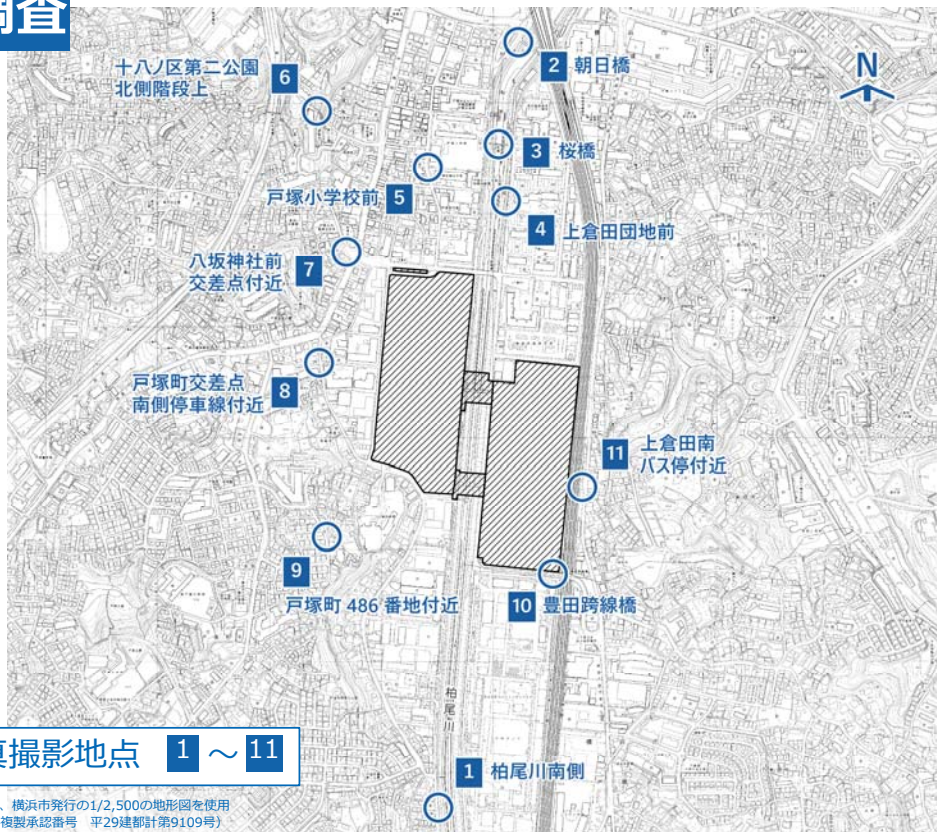
- ・建物の存在
- ・建物の供用
- ・関係車両の走行

景観に関する主な調査内容

調査項目	調査方法
主要な眺望地点からの景観	現地 主要な眺望地点からの景観を写真撮影及び踏査により把握

景観に関する主な調査内容

景観調査



この地図の作成にあたっては、横浜市発行の1/2,500の地形図を使用しています。(横浜市地形図複製承認番号 平29建都計第9109号)

景観に関する予測の手法

供用時			
予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
計画建物の存在により <u>変化する景観</u> の状況	計画建物が竣工した時点	主要な眺望地点より、変化する景観の状況を適切に把握できる地点を選定	<u>フォトモンター</u> <u>ジュ作成</u> により、景観の変化の程度を予測

評価の手法

環境保全目標の設定及び評価

項目に応じて以下の点を考慮した適正な目標を設定

- 調査により判明した事項
- 横浜市が定めた計画、指針等で設定している目標
- 法令等で定められている基準
- 地球環境や日常生活等に著しい影響を及ぼさない水準



予測結果との比較等の方法で、
各項目を定量的、定性的に評価

05 方法書対象地域

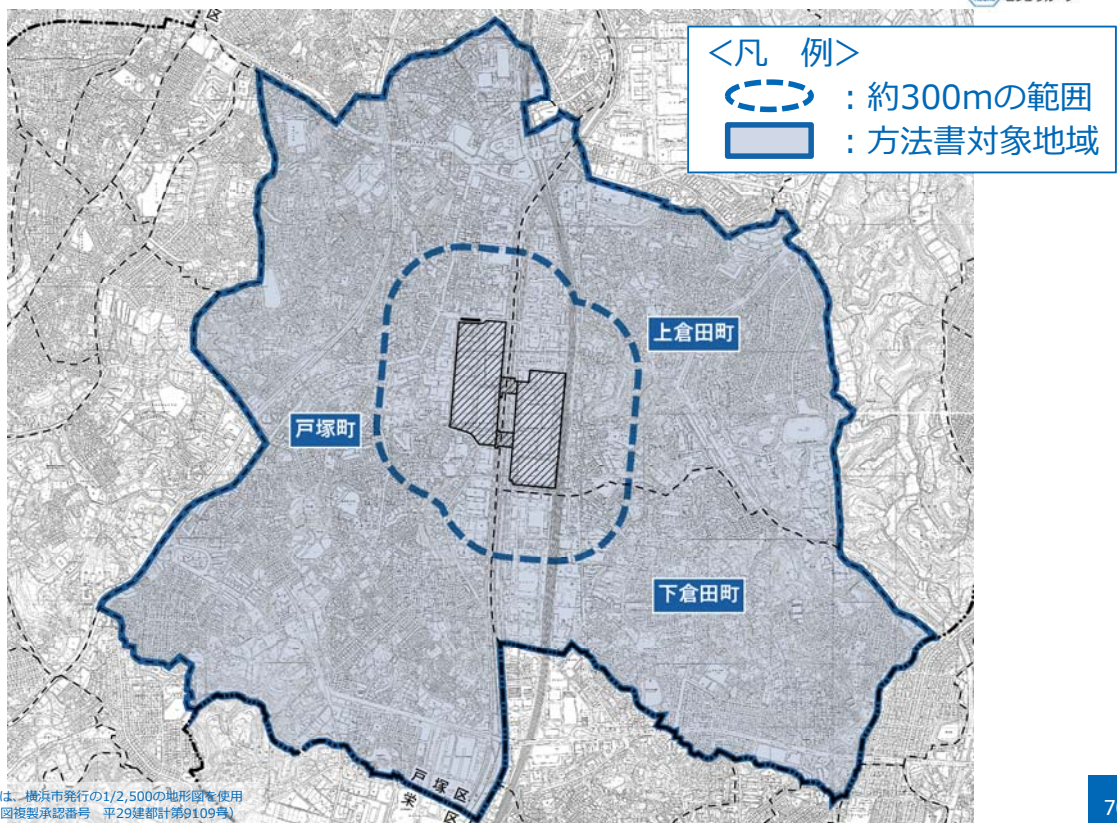
創造で、想像を超える。

方法書 p.158 方法書対象地域

すべての革新は患者さんのために



Roche ロシュグループ



この地図の作成にあたっては、横浜市発行の1/2,500の地形図を使用しています。(横浜市地形図複製承認番号 平29建都計第9109号)

ご清聴ありがとうございました

すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社 |



ロシュグループ